

伝統的工芸品

約300年間、日常生活の中で親まれてきた丹波木綿は、多くの人の目や手に触れることにより日常使いの美を生み出し、その伝統技術、日常用品、手作品などの要件を満たし、1996年に兵庫県伝統的工芸品の認定を受けました。



① ジンキ作り



② 糸紡ぎ



③ 染色(草木染)



④ 糸を枠に巻きもどす



⑤ 整経(〜る)



⑥ 整経した糸もちぎりに巻く



⑦ もじり通し(総統)

彩・風・想を織る



⑧ はた織り



⑨ 出来上がった丹波木綿

江戸時代宝永年間(1710~1740)より篠山市栗柄の里に伝わる伝統技術を用い、地元でとれた材料を使い、ひとつひとつ丁寧に織られた木綿が丹波木綿です。農家の嫁や娘が農閑期の冬に、糸を紡ぎ、染め、織り、一家の衣料としていました。栗柄の自然と暮らしの中ではぐくまれ、「用」と「美」を兼ね備えた味わいある生活用品として、今日まで受け継がれてきました。

ぬくもりの丹波木綿

兵庫県伝統的工芸品



丹波木綿保存会

1973年頃から篠山市栗柄地区で機織機を持ち寄り、明治時代の機械化により一時途切れていた丹波木綿の生産を再開し、昔ながらの製法による手織木綿を復活しました。創作館で活動しています。丹波木綿の購入、見学は「丹波木綿保存会」まで

創作館

〒669-2711 兵庫県篠山市栗柄 1319

TEL.079-593-0922

活動日：月～金曜日 9:00～16:00 (祝祭日は休み)

お越しの際は事前にご連絡ください。

糸よ細出よ細出てきれなあ
 かわい殿さの編の横
 わしは朝から四十目のジネキ
 鳥が啼いてもまだ残る
 サトク落とすは織手のジョサイ
 落ちたサトクに科はない
 糸を紡ぐには手元を下げて
 玉の根元へ巻き上げる
 今夜おいてよ高嶺を越えて
 千代椿を折らぬように
 千代椿を折ったらなんじゃ
 春にゃ芽も出る花も咲く
 (篠山地方の紡ぎ歌)